

THE WORLD TIMES 1月号

2-2 真崎 1-6 花澤

皆さんはお正月に何をしてお過ごしですか？日本ではおせちを食べたり、初詣に行ったりする方が多いと思いますが、海外ではどんなことをするのでしょうか。今回は世界のお正月の過ごし方について紹介します。

【アメリカ】

多くの民族が暮らすアメリカでは、お正月の過ごし方もさまざまです。祝日(休日)は1日だけで、31日の夜からホームパーティーを開いて、家族や友人と新年を祝う人も多くいます。ニューヨークのタイムズスクエアでは、毎年1日の午前0時までのカウントダウンが行われます。1日になると花火が打ち上げられ、にぎやかに新年を祝います。



【イギリス】

イギリスでは大みそかにテムズ川沿いに盛大な花火が打ち上げられ、多くの人でにぎわいます。年が明けるとロンドンのセント・ポール大聖堂の前やトラファルガー・スクエアに大勢の人が集まり、新年の幸運を願って「オールド・ラング・サイン (ホテルの光)」を合唱します。

【スイス】

スイスのある村では「ジルベスタークロイゼ」という行事が行われます。ジルベスター(大晦日)に、クロイゼ(精霊)たちに扮した人びとが順番に家々を回って、新年のあいさつをします。木の枝や実、葉っぱを身にまとった自然のクロイゼ、悪魔や鬼の面をつけたみにくいクロイゼ、カラフルな衣装を着て頭に大きな飾りをつけた美しいクロイゼが、鈴を鳴らし、ヨーデルを歌いながら村を練り歩きます。古い年の「悪」をはらい、新年が幸



せにすごせるようにとの思いがこめられた伝統的な行事です。

【ロシア】

大晦日には、子どもたちがもみの木をかざりつけ、その木を囲んで歌を歌ったりゲームをしたりして楽しくすごします。そこに、子どもたちによばれたマロースじいさんと、その孫娘であるスネグローチカがやってきます。子どもたちはサンタクロースのかっこうをしたマロースじいさんからプレゼントをもらいます。これは「もみの木祭り」とよばれています。



【中国】

中国では、お正月は「春節」とよばれる一年でもっとも重要な祝日です。旧暦の1月1日に行われるため、毎年1月終わりから2月半ば頃の間になります。遠くにいる家族や親戚も集まり、新年の神さまをにぎやかに迎えます。町中では獅子舞の催しなどが行われ、魚や肉料理、もち米と8種類の木の実でつくる八宝飯などがふるまわれます。

縁起がよいとされる赤い袋に入れたお年玉は、結婚していなければ大人でももらうことができます。

【ニュージーランド】

ニュージーランド在住の友人にインタビューしたところ、「私たちは夏に新年を迎え、町の水辺に降りて行って、真夜中に打ち上げられる花火を見るのが恒例です！」と教えてくれました。首都ウェリントンでは冬は10~15℃くらいでそんなに寒くならず、雪ではなくただ雨が降るだけとのことでした。



いかがでしたか。日本と違って、世界では花火を打ち上げて盛大に新年を祝うところが多いように思います。皆さんも日本特有の文化を感じながら季節の行事を楽しんでみてください！

参考文献

<https://www.jishujinja.or.jp/shougatsu/world/>